

JANOG17 @ 仙台 パネルセッション  
「IPv4が残り少なくなったときのことを考える」

# IPv4アドレスが枯渇するころに、 何が起こるか？

---

2006/1/19

外山 勝保 (NTT)

<toyama.katsuyasu@lab.ntt.co.jp>

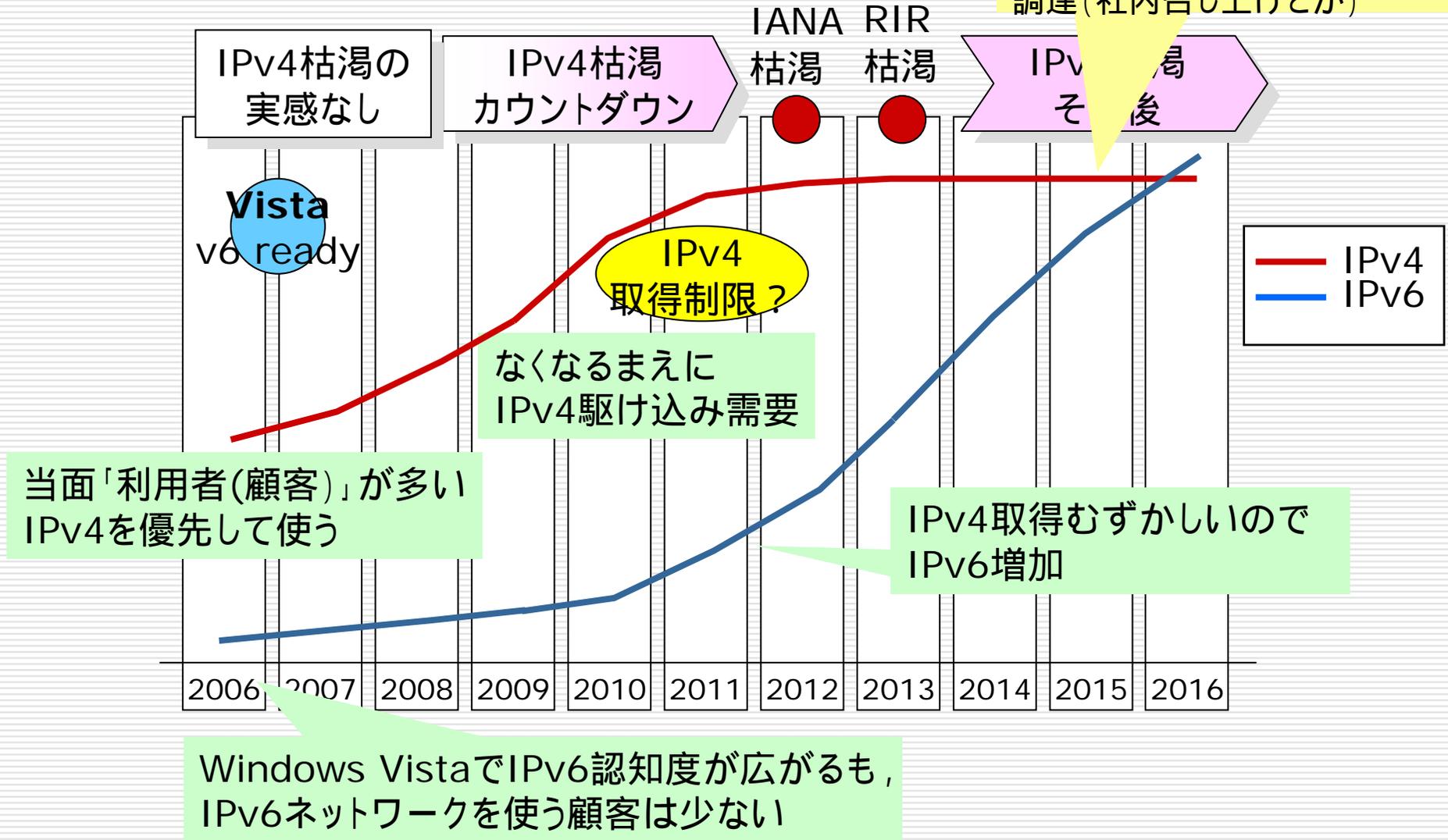
# IPv4枯渇・IPv6普及に関する予想(予感)

---

- IPv4ネットワークは半永久的になくならない。
  
- インターネット利用者(サーバ側も一般利用者も), 当面IPv4に体重を置く。
  - IPv4を使っている利用者が圧倒的に多い.v4だけつながれば十分.
  - IPv6とIPv4の共存が問題を生じるなら, サーバにIPv6アドレスを付けたいとは思わない.
  
- IPv6インターネットが普及するのは, IPv4アドレスが枯渇することが実感されてから.

# IPv4とIPv6の利用トレンド予想

必要なIPv4は何らかの手段で調達(社内召し上げとか)



# IPv4枯渇前のトレンドに影響を与える要因

---

- Windows Vista (IPv6 ready)の影響…あるかな？
- プロバイダのIPv6インターネット対応状況
  - にわとりたまご状態から抜け切れていない
- 新しいサービス, ネットワークの登場
  - 例えば, FMCやNGNと称するネットワーク構築の影響
  - けっこうv4アドレスも必要かも
- JP, APNIC地域だけでなく他地域の動向
  - 後発地域(LACNIC, AfriNIC地域)から, IPv4アドレスを公平によこせ, という議論はおきるか？
  - 米国は論外としても, 日本だけでEU諸国全体より多いIPv4アドレスを持っている
- 使っていないv4アドレスの扱い

## 結局 . . .

---

- 当面v4中心, 枯渴が見えて駆け込み需要があると考えたと, 比較的早い時期にIPv4は取りづらくなる
- IPv4とIPv6を, 同時に, かつ問題なく使えるようにしておかないと, 限られたIPv4資源の価値が無用に高騰する (IPv4バブル?)
  - バブルで一山あてます?
  - でも, インフラでそんなことになるのは問題.
- ビジネス的に見ると今投資しても儲からない話だが, プロバイダはインフラとしてv6対応すべき時期.